

村上議員（ひろしま刷新）

令和6年2月22日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）個別最適な学びに向けた取組について

個別最適な学びの実現に向けて、A Iドリルの活用を、県として研究を積み重ね、若手教員の人材育成のためにI C Tモデル校を作るべきではないかと考えるが、教育長の所見を伺う。

（答）

「個別最適な学び」の実現に向け、児童生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を企画・実践することができるよう、学校や家庭でデジタル機器を効果的に活用することは大変重要であると認識しております。

このため、本県におきましては、令和2年度から2年間、県内の6小中学校を「個別最適な学びに関する実証研究事業」のモデル校に指定し、自由進歩学習の実践を進める中で、A Iを活用したドリル教材の効果的な活用等につつましても研究を積み重ねてまいりました。

また、県教育委員会におきまして、全校種の全ての初任者を対象にデジタル活用スキルの向上に向けた研修を行うとともに、各学校や教員のデジタル活用スキルの状況に応じた訪問指導等を行うなど、人材育成に努めているところでございます。

県教育委員会といたしましては、引き続き、A Iドリルの活用も含め、デジタル機器の効果的な活用の事例を普及させるとともに、教職員のデジタル活用スキルの更なる向上に向けた研修の充実に取り組んでまいります。